

新春ごあいさつ



愛媛銀行
頭取 西川 義教

明けましておめでとうございます。

2024年を迎えるにあたり、謹んで御挨拶申し上げます。

昨年は、コロナの5類移行に伴い、人流が回復したことから、国内経済は緩やかな回復が続きましたが、一方では、設備投資や消費拡大の足取りに力強さが欠けた面も残りました。政府は成長力底上げのため、今後3年程度を「変革期間」と定め、物価や賃金の伸び悩みから抜け出し、消費と投資が拡大する経済へ移行するための「スタートダッシュ」と位置付けています。今後、総合経済対策などの実施により、日本経済が本格的な成長軌道に乗ることが期待されます。

ところで、AIをはじめさまざまなデジタル技術の進化により、世の中は大きな転換期を迎えています。なかでもチャットGPTは急速に浸透しており、人手不足に悩む日本でも、業務の効率化や品質の向上をもたらすツールとして注目されています。当行は、昨年「DXアクション宣言」を行いました。デジタルの力で徹底した業務の効率化と変革を図るとともに、お客様に質の高い金融サービスを提供することで、地域の発展に貢献することを目指します。今や業種を問わず、時間や場所を選ばない、デジタルを活用したサービスが当たり前になっています。当行もアプリでNISA口座が開

設できるサービスを導入し、お客様の資産運用を支援しています。これにより、煩雑な書類を記入する負担がなくなっており、今後も、こうしたお客様にとって便利でお得な非対面サービスを充実させてまいります。

本年は、地域経済にとって明るい話題が盛りだくさんです。2019年から続いていた道後温泉本館の保存改修工事も12月に完成する予定です。また、松山空港発着の国際定期便も、昨年3月のソウル便の再開に続き、新たに釜山便が11月から就航しており、観光客の流入増加、消費の拡大に繋がることが期待されます。当行の県内経済見通しアンケート調査でも、こうした追い風もあり回復基調が続く見通しです。物価の上昇や賃上げの動向、さらには人口減少や少子高齢化、自然災害の多発、サステナブルへの対応など、地域を取り巻く課題は多岐にわたりますが、引き続き当行は、地域金融機関としてグループ一丸となって、お客様と伴走し、地域の持続性に貢献すべく、誠心誠意、尽力してまいります。

結びになりますが、本年の干支は甲辰（きのえたつ）です。成功という芽が成長していき、姿を整えていくという意味があります。皆さまにとって良き年となりますよう祈念申し上げます。